

東部保健医療圏循環器疾患医療連携検討会（仮称）報告

【日 時】 平成31年1月28日（月）午後6時30分～8時

【場 所】 鳥取赤十字病院 多目的ホール（本館1階）

【出席者】 計18人

【概 要】 以下のとおり

議題1 東部保健医療圏における循環器医療等の現状について

（1）検討会開催の経緯

現在、鳥取県東部では専門的な救急医療体制の整備が急務であるが、急性期のみならず回復期・維持期を含めた地域連携が必要となった。この度、鳥取赤十字病院で心臓リハビリテーション研究会立ち上げの世話役会が行われるにあたり、会の趣旨に共通点が多くあることから鳥取市保健所も協働して本会を開催することとなった。

（2）会議資料の説明

資料1：東部保健医療圏循環器疾患医療連携検討会（仮称）の開催経過

資料2：平成29年度病床機能報告結果

資料3：平成26～29年 年齢調整死亡率（循環器疾患）の推移

資料4：平成29年度NCD参加病院の退院患者の状況

参考資料：鳥取県の圏域別医師の充足数（病院）

（3）鳥取県東部保健医療圏の循環器医療の現状と課題について

- ・心疾患患者の高齢化、心不全パンデミックの状態。
- ・地域連携について：急性期から在宅までシームレスなフォローが必要。
- ・救急体制の整備：循環器医の確保が必要。
- ・後方支援病院が少なく（今後さらに減少傾向）、入院期間が遷延している。
- ・病病連携・病診連携の充実が必要。
- ・心疾患のターミナルケアについて：受け入れ先がなく急性期病院でターミナルケアまで行っている状態である。

議題2 心臓リハビリテーションの現状について

資料「鳥取県東部心臓リハビリテーション研究会」の発足について説明

- ・現在、鳥取県東部では心臓リハビリテーション（以下：心リハ）実施施設が少なく、心リハ指導士の有資格者が少ないため、専門的なリハビリを十分に行えていない。
- ・当地域全体で心リハに関する知識・技術水準の向上を図り、急性期から在宅までの包括的な心リハの実施を可能にすることを目的に心リハ研究会を発足。
- ・鳥取県東部心臓リハビリテーション研究会を発足し、今後の活動内容としては、症例検討会や学術講演会、情報交換会などを予定している。

※心臓リハのパスの運用も含め検討を開始したい。

議題3 今後の方針について

（1）鳥取東部心リハ研究会に関して

- ・年3回程度の勉強会を開催予定（3回のうち1回は、講師を招いて開催の予定）
- ・第1回研修会は、埼玉医科大学国際医療センターの牧田茂先生をお招きし2019年6月の最終金曜日に開催を予定している（循環器病診連携の勉強会と合同開催）。
- ・事務局に関しては今後の検討課題とする。

## (2) 心不全連携パスの作成について

- ・心筋梗塞連携パスの使用率は低い現状であり、さらに心不全パスの導入に伴う医師の業務負担は大きい。
- ・一方向性のパス運用には限界があり、訪問・介護などの在宅分野のニーズを把握し、情報交換をした上でパス運用を検討する。
- ・セルフモニタリングなどの教育的な支援を含めた様式の統一化、必ず含まれるべき内容の確認する。
- ・リハビリからパスを発信し、地域連携の道筋をつけてはどうか。

## (3) 行政との連携について

- ・パスの具体的な運用や勉強会の開催については、保健所が関わる予定はない。医療計画の推進に関し県の委託を受けていること、また保健所の機能から考えると、循環器医の確保や医療体制の調整機能を役割としている。
- ・急性期から一方的なアプローチではなく、地域からのフィードバックがあれば、双方向の意見交換が可能となるため、行政への要望として訪問・介護などの地域の声をまとめてもらいたい。
- ・退院調整に係る事業所へのアンケート内容を再確認する他、ニーズの把握方法について検討する。(※在宅医療介護連携推進室とも相談することが必要)
- ・心疾患に関する後方支援病院、在宅での継続したモニタリングの必要性を感じており、行政による心不全手帳の作成等を検討して欲しい。

### 【鳥取市保健所の今後の予定】

- ・循環器疾患医療介護連携に関する訪問看護、訪問リハ、訪問介護等の在宅療養支援を行っている者との情報交換及びニーズ把握
- ・循環器疾患医療介護連携に関する研修会（開催時期・内容は未定）
- ・慢性期医療及び在宅医療、老人福祉施設等を担う医療関係者との情報交換会
- ・心不全手帳の作成等はニーズ把握等により検討を行う

### 【鳥取県東部心臓リハビリテーション研究会の予定】

- ・検討会で報告された予定の他、心臓リハビリテーションパスの運用の検討